

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		前野 一夫		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																							
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																							
工業	工科技術専門課程	応用生物学科			平成22年文部科学大臣 告示第153号	-																							
学科の目的	常に時代にあった人材を必要とする社会に対応しバイオテクノロジーを基盤とする分野において技術者としての実力を備えた社会の中堅たる人材を養成する。特に医薬品・食品を始めたとした健康関連分野での製造・品質管理などに携わる人材を育成し、実務に関する知識、技術を教授する為、企業との連携を密にする事により実践的かつ専門的な能力を有する人材を育成する事を目的とする。																												
認定年月日	平成26年3月31日																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																						
2年	昼間	1800時間	900時間		1050時間		単位時間																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数 (生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																								
80人	81人	5人	2人	9人	11人																								
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S：90点以上 A：80～90点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下は不合格 P：単位認定																								
長期休み	■学年始：4月1日～ ■夏季：7月21日～8月31日 ■冬季：12月23日～1月9日 ■学年末：3月18日～3月31日			卒業・進級 条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																								
学修支援等	■クラス担任制： 有 ■個別相談・指導等の対応 当日中に担任から電話（事情によりEメール等）で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。			課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭、プロジェクト活動、長期インターンシップ ■サークル活動： 有																								
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等 (平成30年度卒業生) 株式会社 ヤクルト本社 エージーシー株式会社 日鉄鉱業株式会社 名糖産業株式会社 ジェイティプラントサービス株式会社 ■就職指導内容 進路相談や個別相談、OB/OGによる講演、企業を招いての業界研究、先輩の体験談会、企業見学などを行っている。 ■卒業生数 34 人 ■就職希望者数 27 人 ■就職者数 27 人 ■就職率 100.0 % ■卒業者に占める就職者の割合 77.1 % ■その他 ・進学者数： 7人 ・東京工科大学 応用生物学部編入、湘南工科大学 工学部、他 (平成 30 年度卒業生に関する 令和1年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定 等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>品質管理検定4級</td> <td>③</td> <td>34人</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td>中級バイオ技術者認定試験</td> <td>③</td> <td>34人</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td>品質管理検定3級</td> <td>③</td> <td>34人</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定3級</td> <td>③</td> <td>31人</td> <td>30人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他 (民間検定等) ■自由記述欄					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	品質管理検定4級	③	34人	33人	中級バイオ技術者認定試験	③	34人	33人	品質管理検定3級	③	34人	24人	ビジネス能力検定3級	③	31人	30人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																										
品質管理検定4級	③	34人	33人																										
中級バイオ技術者認定試験	③	34人	33人																										
品質管理検定3級	③	34人	24人																										
ビジネス能力検定3級	③	31人	30人																										

中途退学の現状	<p>■中途退学者 3名 ■中退率 3.9% (休学者6名含まず)</p> <p>平成30年4月1日時点において、在学者76名(平成30年4月1日入学者を含む)</p> <p>平成31年3月31日時点において、在学者67名(平成31年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>進路変更、健康不安(ドクターストップを含む)、経済的理由 他</p>
	<p>■中退防止・中退者支援のための取組</p> <p>担任と科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。</p> <p>担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。</p> <p>また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談も行っている。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有・無</p> <p>・片柳学園入学学金免除制度・片柳学園給付型奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度</p> <p>・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生・IT資格特待生</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象・非給付対象</p> <p>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 有・無</p> <p>特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日) 受審</p> <p>https://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</p>
当該学科のホームページURL	https://www.neec.ac.jp/department/

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1) 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
- ② 「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。
- ③ 「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2) 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

- ① 「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ② 「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3) 上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

企業が必要とする人材を育成する為に、企業へのヒアリングやアンケートを通して実務に関する知識や技術を調査し、授業科目の改善や内容の工夫を行う。更に、授業科目のシラバスをもとに科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、授業内容や評価方法を定める。教育課程編成委員会への報告も行い、常に授業内容や方法を検証する事により実践的かつ専門的な職業教育を目指す。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、カレッジ長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、カレッジ長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
林 康夫	一般財団法人 日本下水道施設管理業協会（監事）	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	①
島田 雅章	荏原環境プラント株式会社	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	③
加藤 史拓	株式会社 環境施設コンサルタント	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	③
前野 一夫	日本工学院八王子専門学校 校長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	
清水 憲一	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	
田中 秀幸	日本工学院八王子専門学校 学科長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	
沢川 達也	日本工学院八王子専門学校 教育学生支援部 係長	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日（1年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回（3月・9月）

（開催日時（実績））

第1回 平成30年9月13日（木） 10：30～12：30

第2回 平成31年2月27日（水） 10：00～12：00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

業界の動向を踏まえ、微生物学実験や環境・衛生学実験に対する授業内容の改善などをご意見いただいている。特に学生の肌感覚に合った内容を教えた方が良いとのご意見もいただいております。施設見学などの受け入れなどについても実施させていただいた。また、安全性試験に対する考え方が変わっていく中で医薬品業界など専門学校生に求められる人材像が変化している可能性を示唆され関連業界にも調査をする事とした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

医薬品、食品、環境、バイオテクノロジー分野に関する実践的な実習や演習を行うために、各分野で必要となる知識、技術、資格を有している企業から現場での作業に則した形での実習の設計を行う。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

公衆衛生分野において実際に現場見学なども含めて実施する。実験では項目の設定についてアドバイスをもらい、現場で用いられるJISに則った基準などを使用し実験結果などに関しても水処理施設で指標となるような数値を利用して測定できているかなども評価対象にすることとし、評価基準に対してのグレード付も連携企業とともに作成することとした。また、食肉取扱い企業や酒類製造企業などより最新の食品衛生法、HACCPなどについても取り組むよう連携を行っている。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
微生物学実験	さまざまな微生物の取り扱い技術や同定方法について学びます。	楯の川酒造(株)
医薬品・食品分析実験	医薬品・食品の品質管理に関わる分析技術を習得します。	(株)ミートコンパニオン
環境・衛生学実験	作業環境や医薬品・食品の品質管理に関わる環境検査・衛生検査法を習得します。	公営事業(株)

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「品質管理基礎講座（QC検定3級）講習会」

（連携企業等：一般財団法人 日本規格協会）

期間：平成30年8月10日（金）

対象：応用生物学科専任教員

日本規格協会が主催する品質管理検定基礎講座（QC検定3級）講習会に参加した。

品質管理の授業およびその活用は全実習にまたがることから品質管理について経験豊富な講師による講習を受け、より業界が求める品質管理についての内容を理解した。特に統計学的手法を再度徹底して理解する事で今後必要となるデータ解析についての基礎も身に着ける事ができた。

研修名「国産生ハムサミット 基調講演」

（連携企業等：一般財団法人 国産生ハム普及協会）

期間：平成30年9月8日（土）～9月9日（日）

対象：応用生物学科 学科長 田中秀幸

発酵食品としての生ハムの可能性とその美味しさや微生物的生理活性についてのエビデンスについて発表した。

また日本における文化背景や地域との連携についても言及し、日本ならではの発酵食品のつくり込みを提案した。さらに微生物の安全性に関するディスカッションや、全国のカーヴの特徴と考え方やよりよい品質の生ハムの作り方などについて意見交換も行った。特にHACCP対応に向けた取り組みなども有意義であった。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「テクノロジーカレッジ夏期教員研修会 STEAM教育とIoT技術を学ぶ」

(連携企業等：ネットヨタ多摩)

期間：平成30年8月24日 (金)

対象：テクノロジーカレッジ専任教員 (応用生物学科専任教員)

八王子キャンパスにて今後各分野で導入されてくるであろうIoT技術の講習を行った。

さらに、IoT技術を学ぶに当たりプログラミングについてもマイクロビットを用いて基礎的なプログラミング教育を受けた。またブリウスPHEVをもちいたIoT技術の最先端を体験し、最先端技術についての知見を得た。

研修名「手帳で引き出す学生の主体性について」

(連携企業等：NOLTYプランナーズ)

期間：平成31年3月27日 (水)

対象：テクノロジーカレッジ専任教員 (応用生物学科専任教員)

手帳により学生が主体的に勉強量や目標記入などをする事で自分のリズムや生活習慣を「見える化」する事ができるとの事だった。

特に学校向けのスコラ手帳は多くの学校・教員・学生の意見を取り入れ勉強・部活・課外活動など時系列で活動を記録する事ができるので、最終的にポートフォリオにまとめる事ができるようになるとの事だった。

就職活動にも有効に働くと共に自ら学び、考え、行動できる人材になるためのツールとして有効であると感じた。

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「医薬品開発における最新の取り組みとその現場」

(連携企業等：ニプロファーマ)

期間：令和元年9月20日 (金)

対象：応用生物学科専任教員

医薬品メーカーで医薬品・医療用容器の両方のノウハウで開発を行っている埼玉工場にて製造工程を見学すると共に、ISOやGMPなど最新の国際規格やそれに付随する品質管理を満たすための取り組みなどを勉強する。特に卒業生も入職している事から実際に卒業生達に求められる技術や知識、心構えなどを含めて最新の実情を習得する。

今後、実習等に内容を反映させ教員の専門的指導力の向上を目的とする。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「学生相談・学生対応とその支援」

(連携企業等：調整中)

期間：令和元年度中 実施予定

対象：テクノロジーカレッジ専任教員 (応用生物学科専任教員)

多様化する学生とともに学生支援のニーズも多様化している。また、多様な支援を受ける学生も年々増える中で、支援自体を教育の一環として位置づけ、考える事が求められている。その中で多様化する学生達が学習をするうえで学校がどのような支援をする事が求められているのか、またどのように対応するべきであるかを知り、学校・カレッジ・学科・教員単独といった様々な階層での支援方法や現状を検討する事で、より良い学習環境を提供すると共により適切な指導力の向上を目的とする。

研修名「令和元年度 中堅教員研修会」

(連携企業等：一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団)

期間：令和元年8月1日 (木) ~8月2日 (金)

対象：応用生物学科 学科長 田中 秀幸

学校経営の概観を把握することで、中堅教員として学校経営に対する意識を持ち、所属する学校経営と自らに課される仕事の理解を深めることをねらいとする。学校経営における法律や財務をはじめとする様々な知識や手法等の必要性に受講者自らが気づききっかけとする。受講者同士で課題に取り組みながら、学校経営に関わっていくための知識と能力について演習を通じて理解し、各自のマネジメントスキルの課題を認識することで、自校の中長期の計画策定、将来構想について俯瞰した視点を持つことを目標とした。

研修名「令和元年度 コーチング研修」

(連携企業等：公益財団法人 東京都私学財団)

期間：令和元年7月31日(水)～8月1日(木)

対象：応用生物学科 森内 寛

学生各々の個性と能力を伸長するために、教職員として身に付けておくべき育成に関するスキルを向上させ、意識改革や能力開発に役に立つ実践的なコーチング研修を受け、よりよい学生指導に反映する。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3) 教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4) 学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8) 財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守 (33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献 (37) ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

保護者との連携を強化するために保護者会を継続して実施した方が良いとの意見から、学内保護者会および学外会場を増やし、学生へのサポート体制の充実を図る。学生のコミュニケーション能力向上のため、八王子協定ボランティアへの積極的参加を促したり、学科・カレッジを越えた地域連携・企業連携課題などで協働作業を進めコミュニケーション能力向上を図っていく。

社会人の学び直し講座については、実施時期や内容を精査しながら実証研究事業などを参考に再検討していく。

今年度も引き続き教員の就労環境の改善をはかりながら、自発的な能力開発及び向上を目的とした「学校法人片柳学園職員自己啓発支援制度」を活用し、教員の研修体制を整えていく。また、女性管理職育成の取組として、女性活躍推進研修を実施した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日(1年)	卒業生/IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日(1年)	地域関連
三井 隆裕	株式会社NVC(ヌーベルバーグカンパニー) 代表取締役	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日(1年)	医療 企業等委員
宮崎 豊彦	八王子市私立保育園協会 会長 城山保育園 園長	平成31年4月1日 ～令和2年3月31日(1年)	医療・保育 団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 平成30年9月10日

URL : <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、平成30年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL : <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

授業科目等の概要

(工科技術専門課程 応用生物学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリアデザイン1	専門教育を活かしたキャリアデザインを考えます。	1・後	30	2	○				○		○	
○			学習技法	本学科で学ぶにあたり、学習方法を習得します。	1・前	30	2	○			○		○		
		○	フレッシュマンセミナー	本学科で学ぶ意義を理解します。	1・前	15	1	○			○		○		
		○	ビジネススキル	社会人として必要とされるビジネススキルを磨きます。	1・後	15	1	○			○		○		
		○	スポーツ実習1	スポーツを通じ身体を鍛え人間力を高めます。	1・通	30	1			○		○	○		
○			バイオ実験の方法と考え方	実験の基本的注意事項について学びます。レポートや報告書の作成方法について学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
○			基礎生物学	生命の成り立ちなどの理解に必要な生物学の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			基礎化学	物質の性質や化学構造、化学反応式などの基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			基礎数学	バイオ実験に必要な数的処理を理解する為の数学的手法の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			分析化学	バイオ実験に必要な溶液の濃度表記法や酸・塩基の考え方、緩衝液について学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			微生物学	微生物の種類、構造、性質、培養法などについて学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
○			応用微生物学	環境衛生や食品衛生、医薬品生産など様々な産業における微生物の利用法について学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
○			有機化学	生命反応の理解に必要な有機化学の構造と性質および反応の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			生命科学	有機化学で学んだ内容を活かして、生体分子の機能・役割について学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
○			物質の生化学	生命機能の維持に関わる糖質、アミノ酸、脂質などの構造と性質を学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
○			酵素と代謝の生化学	生命機能の維持に関わる代謝系や光合成、生体調節の仕組みを学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
○			遺伝子工学	遺伝子操作技術を学び、有用物質などを大量に生産する方法を学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
○			統計学	医薬品・食品分野に関する実験において必要となるデータ処理法とその考え方について学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
○			基礎バイオ実験	バイオ実験において必要となる生物・化学実験の基礎知識と基本操作を習得します。	1・前	120	4			○	○			○	△
○			生化学実験	生物の重要な構成要素であるタンパク質と酵素の取り扱いに関わる実験技術を習得します。	1・前	120	4			○	○			○	△
○			微生物学実験	さまざまな微生物の取り扱い技術や同定方法について習得します。	1・後	120	4			○	○			○	△
○			遺伝子組換え実験	生物からのDNA抽出法など遺伝子工学技術の基礎を習得します。	1・後	120	4			○	○			○	△
		○	インターンシップ1	インターンシップに参加して実践力を養います。	1・通	30	1			○		○		○	

	○	キャリアデザイン2	専門技術・知識を生かした活躍の場を手に入れる為のマナーや心構えを身につけます。	2・前	15	1	○			○	○		
	○	プレゼンテーション	様々な場面で必要とされる、プレゼンテーション能力を磨きます。	2・前	15	1	○			○	○		
	○	スポーツ実習2	スポーツを通じ身体を鍛え人間力を高めます。	2・通	30	2	○				○	○	
○		分子生物学	生命現象を分子レベルで理解し、それらがどのように制御されているかを学びます。	2・前	30	2	○			○	○		
○		植物生理学	植物特有の構造を知り、植物を用いたバイオテクノロジーについて学びます。	2・後	30	2	○			○	○		
○		細胞生物学	生命現象を考える上で重要な生物を構成する基本単位である細胞の構造と機能について学びます。	2・前	30	2	○			○	○		
○		衛生学	健康の維持、増進、疾病の予防・発見の方法について学びます。	2・後	30	2	○			○			○
○		免疫学入門	生体の持つ防御機能である免疫の仕組みについて学びます。	2・前	30	2	○			○			○
○		機器分析化学	バイオ実験で用いる分析機器の測定原理や分析方法を学びます。	2・後	30	2	○			○			○
○		生理学	ヒトの体のつくりや形、仕組みを学ぶとともに、器官、組織、細胞と視点を小さくしながら学びま	2・後	30	2	○			○	○		
○		薬の作用	体内に入った薬が病気に効く仕組みや、薬の有害作用と毒作用について学びます。	2・前	30	2	○			○	○		
○		食品化学	食品に含まれる栄養素とその機能について学びます。	2・後	30	2	○			○	○		
○		食品分析	食品中の栄養成分の測定法や食品の検査法とその原理について学びます。	2・前	30	2	○			○	○		
	○	品質管理	品質管理に対する知識を習得すると共に、品質管理検定試験に向けた対策を行います。	2・前	30	2	○			○	○		
	○	バイオテクノロジー	生化学、微生物学、遺伝子工学、分子生物学などバイオテクノロジーを総論的に学びます。	2・後	30	2	○			○	○		
○		実験動物学実験	実験動物の取り扱いや、動物細胞の培養など動物に関係する技術を習得します。	2・通	60	2			○	○			○
○		植物生理学実験	植物特有の取り扱い方や、植物の構造を利用した実験技術を習得します。	2・通	60	2			○	○		○	
○		分子生物学実験	遺伝子操作や遺伝子発現解析実験など分子生物学分野の実験技術を習得します。	2・通	120	4			○	○		○	
○		医薬品・食品分析実験	医薬品・食品の品質管理に関わる分析技術を習得します。	2・前	120	4			○	○		○	○
○		環境・衛生学実験	作業環境や医薬品・食品の品質管理に関わる環境検査・衛生検査法を習得します。	2・後	120	4			○	○		○	△
	○	インターンシップ2	インターンシップに参加して実践力を養います。	2・通	30	1			○		○		○
				44 科目	1950時間								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目1710時間(82単位)、選択科目90時間(6単位)以上を取得し、合計1800時間(88単位)以上を取得すること。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。